

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-161	12-133	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Cost-effectiveness of interventions for reducing road traffic injuries related to driving under the influence of alcohol. 酒気帯びの交通事故を減らすための費用対効果について		
執筆者		
Ditsuwan V, Lennert Veerman J, Bertram M, Vos T.		
掲載誌		
Value Health. 2013 Jan-Feb;16(1):23-30.		
キーワード		
費用対効果、酒気帯び、交通事故、タイ		
要 旨		
目的： タイにおける酒気帯び運転によってひき起こされる交通事故関連の傷害を減少させるための介入の費用対効果を判定することを目的とする		
方法： この研究は一般的な費用対効果分析を健康部門からの費用を含めて実施した。対象は傷害、身体障害を負う、死亡に至るなどの交通事故の被害者とした。タイの Injury Surveillance システムから飲酒事故の割合を算出した。介入の効果はタイの1州で行われた研究および published reviews から得た。現在実施されている無作為の呼気テスト (RBT) と選択的呼気テスト (SBT) とマスメディアのキャンペーンが、何もしない場合と比較した。我々は2004年タイバーツレート (US \$1 = 41 baht) で介入費用、治療費用の減少による相殺部分を計算し、障害補正生存年 (DALYs) に算出した。障害補正生存年数あたり11万バーツ (一人当たり国内総生産、2680ドル) 以下の介入コストは非常に費用対効果が高いと判断した。		
結果： 本研究では何もしない場合と比較して、選択的及びランダムな呼気テスト、マスメディアによるキャンペーンは費用対効果があった。回避治療を除いても介入コストのみを含めるとすべて3つの介入は非常に費用対効果があった。費用対効果率 (ICERs) は障害補正生存年数あたりそれぞれ10,300、14,300、13,000バーツであった。マスメディアのキャンペーンと飲酒検問を組み合わせることも費用対効果があるが、飲酒検問所が不十分であることは全体の効果を抑制した。		
まとめ：		
タイで飲酒検問を実施し、より一層のマスメディアキャンペーンを行うことが推奨された。同時に実施されたこれらの介入は、24%、アルコール関連交通事故を減少させる可能性がある。		